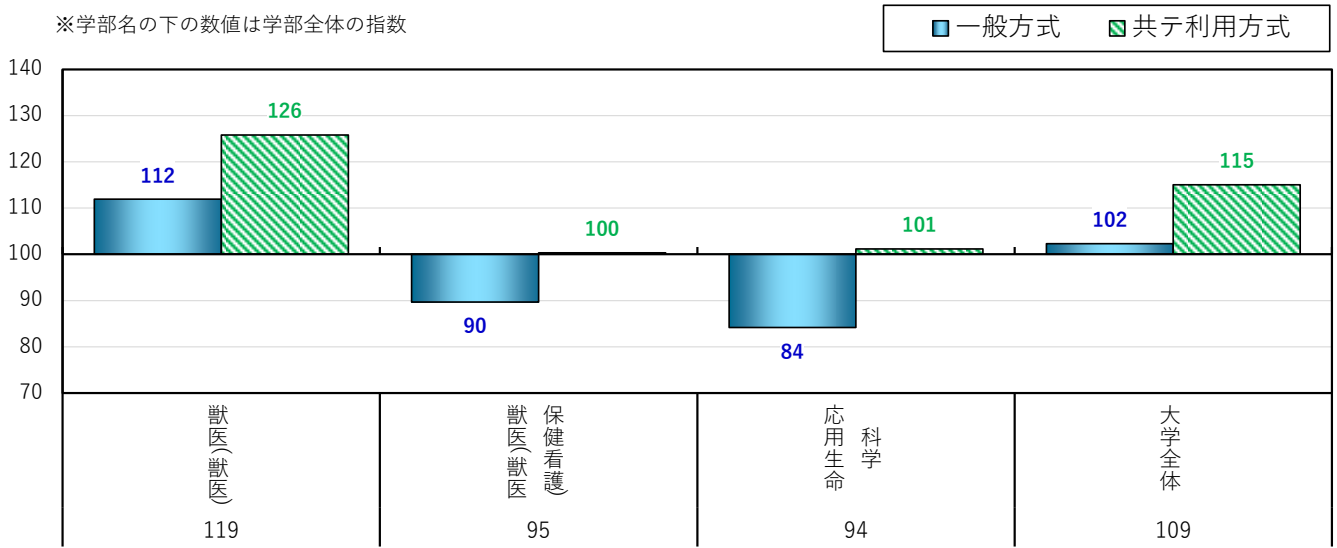


日本獣医生命科学大：獣医(獣医)の大幅増加で大学全体では4年ぶりの増加 一般：+33人 共テ：+226人

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数



<b>主な入試変更点</b>	選抜方法：全学部<一般>…出願時の志望理由書等を合格ラインで同点の場合の合否判定に利用する <一般・第1回(独自試験)>、<一般・第2回(共テ併用)>…特待生制度の導入 ※入学年次の授業料免除 入試科目：応用生命科学<共テ>…理、外が必須から選択へ、選択科目の組合せ変更 理・理基2+外+(国 or 数①) ※理：化 or 生→(国 or 外)+(数① or 理・理基2) ※理：化 or 生 <共テ併用・第2回>…<共テ>外+(国 or 数① or 数②)、<個>理 ※理：化 or 生 →<共テ>(国 or 数① or 数② or 外)、<個>理 ※理：化 or 生 応用生命科学(食品科学)<一般>…数、外が選択からどちらか選択必須へ (数 or 理 or 外)→2 ※理：化 or 生 ※理2での受験可 →(数 or 理 or 外)→2 ※理：化 or 生 ※理2での受験不可、数または外選択必須
----------------	--

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、獣医(獣医)(119)の大幅増加により、259人(109)の増加で4年ぶりの増加。方式別では、一般方式は33人(102)の微増だが、募集人員は13%減少だったので、志願倍率は9.1倍→10.7倍にアップ、4年ぶりに10倍を上回った。共通テスト利用方式は226人(115)の大幅増加で、4年ぶりの増加で、志願倍率も32.0倍→36.8倍にアップ。

- <一般方式>
- 獣医(獣医)(112)は、3年連続減少の反動で増加。募集単位別では、<一般・第1回>(116)は大幅増加、<一般・第3回>(101)は微増。
  - 獣医(獣医保健看護)(90)は、2年連続減少。志願者数は300人を下回った。募集単位別では、<一般・第3回>(60)は大幅減少、<一般・第1回>(98)は微減。
  - 応用生命科学(84)は、募集人員が29%減少だが、志願者数減少率がこれを下回ったため、志願倍率は逆に3.8倍→4.5倍にアップ。学科別では、(動物科学)(83)は大幅減少で7年連続減少。しかし、募集人員が25%減少だが、志願者数減少率がこれを下回ったため、志願倍率は4.5倍→4.9倍にアップ。(食品科学)(87)も減少で7年連続減少。しかし、募集人員が35%減少だが、志願者数減少率がこれを下回ったため、志願倍率は2.7倍→3.6倍にアップ。

- <共通テスト利用方式>
- 獣医(獣医)(126)は、5年連続減少の反動で大幅増加。募集単位別では、全ての募集単位が増加、特に<共テ・第1回5科目>(137)、<共テ・第1回3科目>(133)は大幅増加。
  - 獣医(獣医保健看護)(100)は、前年度増加の反動はなく前年度並。募集単位別では、<共テ・第1回>(102)は微増、<共テ併用・第2回>(98)は微減。
  - 応用生命科学(101)は、微増だが前年度までの3年連続減少が止まった。学科別では、(食品科学)(95)はやや減少で4年連続減少。一方で、(動物科学)(104)はやや増加で4年ぶりの増加。